

# 2014 年度 LET 関西支部秋季研究大会

2014 年 10 月 11 日 (土)

同志社女子大学 (今出川キャンパス) S013 教室

## ✚ 基調講演

### 「日本における英語教育と国際言語としての英語」

本名 信行 先生 (青山学院大学名誉教授)



#### プロフィール

青山学院大学国際政治経済学部教授を経て、現在同大学名誉教授。専門分野は、「国際言語としての英語」、異文化間リテラシー、言語意識、言語監査、非言語伝達、手話コミュニケーションなど。日本「アジア英語」学会会長(2000-2009)、国際異文化間コミュニケーション研究学会 (IAICS) 会長(2007-2009)、中央教育審議会外国語専門委員 (2003~2010) などを歴任。 *Asian Englishes* (Routledge) Founding Editor and Advisor のほか、 *World Englishes* (Blackwell)、 *English Today* (Cambridge University Press) などの編集顧問。最近の編著書に、『企業・大学はグローバル人材をどう育てるか』(アスク出版、2012)、『国際言語として英語』(富山房インターナショナル、2013) など。

#### 講演概要

日本の英語教育は公式に、国際理解教育というより大きな営みの一部と位置づけられている。そこで、英語教育をこの目的にそって実行するとなると、3つの活動が期待される。(1) 英語を国際言語として教える、(2) 自国の文化を説明する、(3) 他国の文化を理解する、である。これらを実際に推進するにあたっては、3つの具体的な課題が浮かんでくる。(1) 英語をアメリカ人やイギリス人のことばではなく、国際コミュニケーションのための多文化言語であると理解し、教えるのにはどうしたらよいか、(2) 生徒・学生が自分のこと、近隣社会のこと、日本のことを英語で説明できるようにするのはどうしたらよいか、(3) 生徒・学生が世界のいろいろな英語を話す人々の文化に興味をもつようにするのはどうしたらよいか、である。もちろん、これらの課題は日本特有のものではなく、世界の英語教育界で取り組むべきものである。本講では、これらの課題を考えたい。

<http://let-kansai.org>

## ワークショップ

### 1. 中高授業研究部会「協同学習への誘い」

講師： 高田 哲朗 先生（京都教育大学附属高等学校）

西本 有逸 先生（京都教育大学）

#### 概要

教室内での協同学習の魅力についてワークショップ形式で考えます。

1. 小学校外国語活動の『Hi, friends!』に見られる原型（西本担当）
2. 中学校教科書を用いて、思考・判断・表現力の育成を目指した協同学習（西本担当）
3. 高校教科書を用いて日本語で行う協同学習（高田担当）
4. 高校レベルの Dictogloss を英語で行う協同学習（高田担当）

#### プロフィール

高田 哲朗：京都教育大学附属高等学校教諭。京都教育大学大学院教育学研究科修了。生徒の主体的な学びのために協同的な学びを取り入れることに関心がある。

西本 有逸：京都教育大学教授。専門は英語教育学。LET 関西支部中学高校授業研究部会長。ヴィゴツキー／バフチン理論から英語科教育を捉え直している。

### 2. メソドロジー研究部会「研究会をひとりでも多くに

#### 届ける：ライブ中継や資料共有の方法」

講師： 浦野 研 先生（北海学園大学）

#### 概要

このワークショップでは、研究会等のイベントをインターネットを利用して同時中継したり、研究会の動画や配布資料を後日オンデマンドで利用できるようにするための方法について紹介し、実際にデモンストレーションを行います。Ustream や Slideshare といった無料のサービスを利用し、タブレットやスマートフォンを利用してできるだけ手軽に研究会のコンテンツを共有することを目指します。

#### プロフィール

浦野 研：横浜生まれ。長野県育ち。ハワイ大学マノア校大学院で英語教育と第二言語習得を専攻。2003年より北海学園大学（札幌市）で主に経営学部生を対象に英語を教え、2011年より経営学部教授。関心は統語・形態素の習得、TBLT、ESP 教育。ガジェット好き。